



# M I G A コラム

## 「世界診断」

2017年4月21日

### 民主主義の今日と明日

川口 順子

明治大学国際総合研究所 フェロー



東大・米エール大院卒。通商産業省入省後、世界銀行エコノミスト、在米大使館公使を務める。93年退官。企業役員を経て、2000年、森内閣において環境庁長官に登用される。小泉内閣においても環境大臣、外務大臣を歴任し、退任後は内閣総理大臣補佐官（外交担当）に就任。2005年、参議院神奈川県補欠選挙にて初当選（自民公認）。2013年7月の参院選には出馬せず、政界を引退した。

民主主義の模範生である米国で行われた大統領選挙、そして同じく模範的だった英国のEU離脱をめぐる国民投票の結果、世界はより不安定かつ不透明になったと多くの人々が感じている。民主主義が今問われている。

私が「民主主義」という言葉で思いおこすのは、米国議事堂の踏み減らされた石の階段である。2~30年前のこと、初めて米国議会を訪問した。白亜の議事堂の入り口で荷物検査を受けて中に入り、石段（大理石だったかもしれない）を登った時、その階段の踏み石の中央あたりがかなりへこんでいるのに気がついた。米国の現在の議事堂は概ね19世紀半ばに完成したそうである。それから150年余りの間に、大勢の選挙民がその階段を上り下りした、文字通りその跡である。石段がへこむほどの人数とはいったいどれ位なのだろうか。へこんだ石の階段が私に教えてくれたのは、何よりも、議会と選挙民の近さであった。それ以来、米国議事堂の石段は私にとって民主主義のシンボルになった。

議会の石段が特に印象深かったのには二つの理由がある。

当時私は、仕事で米国の行政府の建物も頻繁に訪問していた。1990年頃には、議事堂に入るよりは、政府の建物に入るチェックの方がはるかに厳重であった。例えば、政府の建物に入る時には、訪問先部局からの迎えの人の同行がなければ、中を歩くことはできなかったものである。

また、わが国の国会の階段は赤じゅうたんで覆われているのでその減り方はよく見えない。ただ、当時の日本では、大方の省庁は出入り自由であったのに対し、国会に入る手続きは相当に厳重だった。

現在ではテロリストの攻撃の危険などがあり、どの国でも、立法府や行政府の区別なく人々の出入りのチェックはかなり厳しくなっていると推察する。残念な事態である。

かつて私が、「これぞ民主主義だ」と深い感銘を受けた言葉がもう一つある。2000年頃に駐日米大使を務められた元共和党上院議員のハワード・ベーカー大使に聞いたことである。ベーカー大使は長期間議員を務め、その間与党としての院内総務と野党としての院内総務をほぼ同期間つとめられたとのことであった。「自分は与党であった経験と野党であった経験を持っているので、議会の運営で一番重要なのはルールだということを知っている。だから、与党の院内総務時代、議会の運営はルールに従って行うことを旨としていた。」民主主義が円滑に機能するための根幹を述べた言葉だと深く感じ入った。

4月初め、ワシントンを数日間訪問する機会があった。この間、習近平の訪米があったり、米国のシリア攻撃があったりと国際政治はめまぐるしく動いた。それだけでなく、トランプの保守派の側近のバノン主席戦略官・上級顧問が、国家安全保障会議のメンバーから外れた（4月5日）だけでなく、主席戦略官・上級顧問の職からも更迭されるのではないかなどと、ホワイトハウス内の側近の間での権力争いについての噂で持ち切りであった。

トランプ大統領は、通常就任後100日と言われるいわゆる蜜月期間においても、オバマケアの改革法案を成立させることに失敗し、また、移民規制政策も司法の反対にあって成立していない。世論の支持率も4月初め30%台半ばであり、近年における歴代大統領の支持率としてはもっとも低い。

米国議会でも二大政党制はかつての役割を果たしているとは言いがたいように思える。先般最高裁判事が議会によって承認されたが、その際に共和党は法によって保障され、かつ少数党にとって重要な抵抗手段である議事妨害（フィリバスター）を封じる形で投票に持ち込んだ。ルールが尊重されたとは言いがたい。

民主主義は世界的に重要な統治の原則として受け入れられている。それが、民主主義の本家本元でこのような結果につながっていることを私たちはどう理解したらよいのだろうか。民主主義国家だから、この程度の問題で済んでいる、もともと効率的な制度とは言えない民主主義のコストと考える人もいるであろうし、民主主義の根幹の問題が表面化したと考える人もいるだろう。

私は民主主義については、民意を代表する点でこれより良い制度はないと引き続き考えている。ただ、問題はある。それは民主主義が選挙のあった時点での民意を代表するものだということである。そこで表明される民意は必ずしも先見性をもったものではない。また、歴史の教訓も忘れられているかもしれない。もちろん民主主義の良さは、次の選挙でその時点での民意が反映されるというメカニズムを内包することである。しかしそれでも、将来大きく変動することが見通される構造的な問題や次世代の立場、また、過去の経験は選挙には反映されにくいと考える。

民主主義を円滑に機能させるためには、従って、有権者一人ひとりの見識を高めることが重要だと思う。周りに流されず、自分の足で立ち、過去・現在・将来を見通す賢さに期待したい。そのための教育の重要性は強調しきれない。（了）